

コラム②北海道胆振東部地震における避難所の状況について

～北九条小学校での避難所運営～

北区保健福祉部保健福祉課(北区災害対策本部避難所班)

【多数かつ多様な避難者が身を寄せた北九条小学校】

平成30年9月6日午前3時7分に発生した平成30年北海道胆振東部地震は、札幌市内で最大震度6弱を記録し、札幌市における過去最大規模の地震となりました。

そのような中、北九条小学校は、北区において避難者数が最も多かった避難所で、9月6日の午後11時頃には600人以上の方が避難されていました。これほど多くの避難者が集まった要因としては、北九条小学校がJR札幌駅の近くに位置しているため、交通機関が止まり、行き先を失った旅行者が多数避難してきたことが挙げられます。旅行者の中には外国人の方も多数おられました。また、北海道大学からも近いため、外国人留学生の方も多数来られました。このように外国人の避難者が多かったことが、この避難所の特徴といえます。また、避難者の中には、停電による断水とエレベーターの停止などにより、自宅での生活が困難となった近隣の高層マンションにお住まいの方も多くおられました。

地震発生後、北区から派遣された職員2名が北九条小学校に到着したのは午前6時前でしたが、既に学校の職員の方が体育館を開けていて、40名弱の近隣住民が避難され、中には新生児を連れた方や介護の必要な方もおられました。避難者はJR札幌駅で足止めされている方や、地下歩行空間に避難していたもののトイレが使用できずに移動してくる方など、時間が経つにつれて増え続け、体育館は満員となりましたが、学校の御協力により、ホールや図書室等も開放していただきました。



体育館の様子

【多くの方々の御協力をいただいた避難所運営】

急激に増加する避難者へ対応するため、北区からの派遣職員も増員されましたが、職員だけでできることは限られており、多くの方々に御協力いただきました。

町内会やボランティアの方々には、避難者に、住所・氏名等を記入していただき、水とアルファ化米、毛布を手渡すなどの受付業務を手伝っていただきました。

外国人とのコミュニケーションについては、



近隣の企業からいただいた飲料水

5 か国語を話せるという避難所の近隣にお住まいのイタリア人男性が通訳ボランティアとして駆け付けてくれました。彼のおかげで、外国人の方とのコミュニケーションの面で大きく困ることはありませんでした。

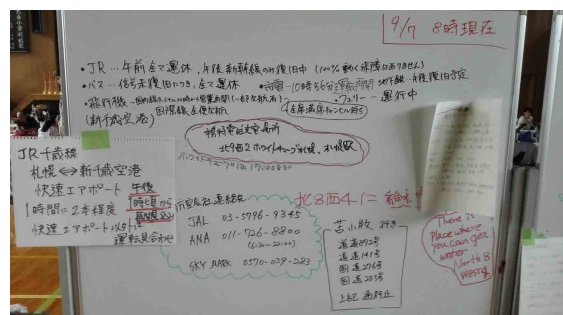
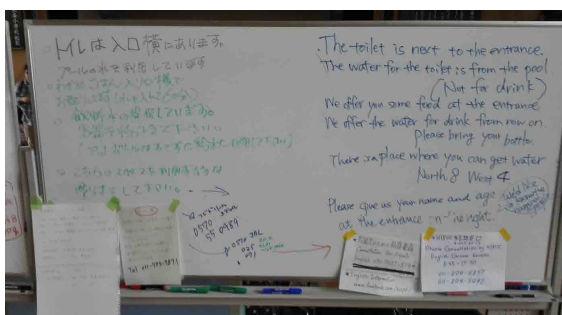
北九条小学校における停電は丸2日近くに及び、その間、断水状態となりました。飲料水については近隣の企業からペットボトルの飲料水を多数援助いただいたため、不足することは無く大変助かりましたが、トイレの水が流れないことは衛生面も含めて大きな問題でした。

幸いなことに5階にあるプールに水が張ったままとなっていたため、これを運んでバケツで水を流すこととなりました。これだけの避難者が利用するだけの水を運んでくるのはかなりの重労働ですが、学生ボランティアの方々が大きな力となってくれました。また、学生ボランティアだけでは人が足りないため、避難者に協力を呼び掛けたところ、昼夜を問わず延べ100人近くの方々が快く協力を申し出てくれました。

このように、たくさんの方々の御協力をいただきながら、震災4日目となる9月9日に避難所を閉鎖することができました。大きなトラブルもなく避難所を運営することができたのは、町内会やボランティア、学校教職員、避難者の皆さまが大変協力的で、各々が率先して自分のできることを行っていた結果だと思えます。



5階にあるプールの水を1階までバケツで運びました。



避難所の掲示板（左：避難所内の案内 右：公共交通機関の状況）

【今後に向けて】

今回の北九条小学校の避難所運営を通じ、大規模停電を想定した避難所運営体制のあり方や外国人避難者への対応など、多くの課題が見えてきました。これらの課題の解消に向け、検証をしっかりと行い、今後の対策に生かしていきたいと思えます。

【お問い合わせ】北区保健福祉部保健福祉課 TEL. 011-757-2470